

高松市議会 ● 平成29年6月 ● 代表質問

スマートフォンなどの情報技術の進展や人工知能(AI)などの科学技術の劇的な変革により、社会が大きく様変わりを遂げようとしています。今回の代表質問は激変する10年後、20年後の高松の未来の「まちづくり」やそのまちづくりを担う「人づくり」に焦点を当て、大きく9項目にわたり質問をしました。そのうちの3つの質問を紹介します。

- Q1 政策企画能力向上のための今後の取り組みについて
- Q2 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の今後の取り組みについて
- Q3 まちづくりについて
- Q4 地域共生社会の実現に向けた今後の取り組みについて
- Q5 情報化の推進について
- Q6 中長期を見据えたAI時代の人財戦略の考えについて
- Q7 地球温暖化対策について
- Q8 創造都市推進について
- Q9 未来を担う人づくりについて



私が考える議会質問とは日ごろの政務活動を通じて課題をまとめ、よりよい市民生活のための提言をする場だと考えています。

Q4 地域共生社会の実現に向けた今後の取り組みについて

福祉サービスは、高齢者・障がい者・子供といった対象者ごとに提供する既存の縦割りシステムでは対応できないケースが増えてきています。「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域でお互いに役割を持ち、支え合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」を実現するために、本市の総合センターで「丸ごと」総合相談支援が担えるように体制整備を行うことを提案しました。

Q6 中長期を見据えたAI時代の人財戦略の考えについて

情報技術や人口知能の進展により、これから人の働く環境が大きく変わって来ます。既に民間企業や先進自治体では、人にしかできない「対人能力、コミュニケーション能力、調整能力、創造力」の高い人材を採用し育てる取り組みへと改革が進んでいることを紹介し、本市の人財戦略(採用から育成まで)を改めるべきだと提案しました。

Q9 未来を担う人づくりについて (提案の一部)

今の30代、40代の若者の4割が非正規社員であるというように、子供たちがこれから生き働く社会はこれまでの日本的経営(終身雇用、年功序列、企業内組合)に守られる幻想が既に無くなっています。将来どのように働き、生き抜いていくのかという「キャリア教育」の重要性が増している中で、本市のキャリア教育やふるさと教育のあり方を見直すことを指摘しました。また、「キャリア教育」は学校だけが行うのではなく地域あげて推し進めるべきとして、「こども未来館」を中心に広く地域の商工業者や青年会議所が市民協働で「キャリア教育」に取り組むべきだと提案しました。

高松市議会の過去の会議録やインターネット議会中継はホームページでご確認いただけます。



相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。
 党員に限らず、どなたでも結構です。 E-mail: info@haruta.jp



高松市議会議員
春田 敬司
 はるた けいし

1967年 兵庫県神戸市生まれ
 国立高松工業高等学校機械工科学科卒
 (南ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント))
 平成19年4月高松市議会議員初当選。妻と大学3年生、
 大学1年生、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、
 「永遠の都」。ポリシーは「認識せずして、評価せず。」

春田敬司のオフィシャルサイト

http://www.haruta.jp



主な活動実績

- | 日付 | 活動内容 | 平成29年
4月~8月 |
|---------|--|----------------|
| 4月7日 | 弦打保育所入所式 出席 | |
| 10日 | 交通安全キャンペーン 参加 | |
| 11日 | 勝賀中学校入学式 出席 | |
| 12日 | 弦打小学校入学式 出席 | |
| 13日 | つるうち幼稚園入園式 出席 | |
| 14日 | 議会運営委員会 出席 | |
| 15日 | 弦打コミュニティ協議会「防災・福祉マップ」説明会 開催 | |
| 17日 | 高松市消防局北消防署(朝日分署)落成式 出席 | |
| 19日 | 弦打小学校「防災・福祉マップ」説明会 開催 | |
| 22日 | 高松市議会 第2回議会報告会 開催 | |
| 26日 | 議会運営委員会 出席 | |
| 28日 | 高松市議会第2回臨時議会議案説明 出席 | |
| 30日 | NPO法人KHJ香川県オリープの会総会 来賓出席 | |
| 5月1日 | 高松市・基隆市との交流協定式典 出席 | |
| 2日 | 高松市公共施設再編整備計画(案)事前説明 出席 | |
| 3日 | 高松春のまつり「フラワーフェスティバル&交通安全フェア2017」出席 | |
| 9日 | 議会運営委員会 出席 | |
| 12日 | 高松市議会第2回臨時議会 出席 | |
| 21日 | 弦打校区運動会 出席 | |
| 23日 | NPO法人ソーシャルベンチャーズ四国 総会参加 | |
| 26日 | 高松市議会第3回定例会議 議案説明 出席 | |
| 27日 | 勝賀中学校運動会 出席 | |
| 〃 | NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク香川 総会参加 | |
| 6月7日 | 高松市芸術士派遣事業3者会合 出席 | |
| 8日~22日 | 高松市議会第3回定例会議 | |
| 14日 | 高松市議会 代表質問 | |
| 21日 | 高松市議会観光議員連盟総会 出席 | |
| 24日 | 香西地区防災セミナー「マイ・タイムライン」参加 | |
| 〃 | 高松市議会観光議員連盟 サンセットクルーズ 参加 | |
| 25日 | 高松市総合防災訓練 出席 | |
| 30日 | 高松市社会福祉審議会 出席 | |
| 7月5日 | 議会改革ICT推進プロジェクト 出席 | |
| 7日 | NPO法人アーケバロ 総会参加 | |
| 13日~14日 | 地方議員研究会 早稲田大学 共催セミナー
「地域ポイントシステム・民泊・地域公共交通」参加 | |
| 20日 | 議会改革ICT推進プロジェクト 出席 | |
| 25日 | 高松市総合教育会議 傍聴 | |
| 26日 | 高松市議会公明党議員会派視察 荒川区 | |
| 27日 | 高松市議会公明党議員会派視察 大和市・戸田市 | |
| 28日 | 高松市議会公明党議員会派視察 柏市 | |
| 31日 | 教育民生常任委員会 所管事務調査 出席 | |
| 〃 | 議会改革ICT推進プロジェクト 出席 | |
| 8月2日 | 議会改革ICT推進プロジェクト 出席 | |
| 4日 | 議会改革ICT推進プロジェクト 出席 | |
| 14日 | 高松祭り総踊り 参加 | |
| 28日 | 屋島 視察 | |
| 30日 | 高松市若者支援会議 傍聴 | |

4月~8月の市民相談件数48件 [累計1,334件]

会計報告 政務活動費

経費の区分	金額	平成29年 4月~8月
1 調査研究費	34,342	
2 研修費	118,464	
3 広報費	0	
4 広聴費	0	
5 要請・陳情活動	0	
6 会議費	24,800	
7 資料作成費	75,060	
8 資料購入費	88,841	
9 人件費	0	
10 事務所費	0	
合計	341,507円	

高松市議会では、他の議会
 で政務活動費の不祥事が
 続いたことにいち早く対応
 し、他の議会より厳格で
 あった「政務活動費の使途
 基準運用指針」をさらに厳格
 に改め、収支報告書及び
 添付書類の全てについて、
 ホームページ上での公開を
 開始しています。

春風通信

高松市議会議員
春田敬司 と明日を考える。

vol.12
 2017 AUTUMN

家族だけの問題ではない! ひきこもりの今

高松市で推定1,800人

地域が一丸となって取り組むべき問題です!

全国で
54
 万人

平成28年内閣府は、ひきこもり者数の推計が
 全国で54万人にのぼることを発表しました。

この推計に基づけば、高松市にはおよそ1800名もの人が、
 ひきこもりで苦しんでいるのです。



ひきこもりは家族が原因ではない!

このタイトルを見れば多くの方が意外に感じるのではないのでしょうか。でも一緒に考えてみてください。ひきこもりの子どもがいる親は、全て子育てを間違っていたのでしょうか。社会で活躍しているお子さんを持つ親は、全て子育てが優れていたのでしょうか。そうとは言い切れませんよね! ひきこもりの原因は、ひきこもっている人が社会との繋がりをうまく持てていないことだと言われています。



思いもよらないことがきっかけになることも。

ひきこもりになったきっかけをお聞きすると、「学生時代のいじめが原因で不登校となりそのまま続いている」「就職活動がうまくいかず気力を失った」「就職先でのパワハラでうつ状態になってしまい会社を辞めてしまった」など、さまざまです。中には精神疾患が背景にある場合や、明確な要因が見当たらない場合もあります。型にはまった対応を押しつけるのではなく、それぞれの状態に応じた対策を考え、工夫をしていくことが必要となるのです。

誰にでも起こりうる問題です。

ひきこもりの問題を抱えていると、どうしても世間の目などが気になり、隠してしまいがちになります。そして、ご家族だけで抱え込んでしまうと、家族も本人も社会から孤立してしまい、かえって問題が長期化してしまう可能性があります。現代社会が生み出した「ひきこもり」という現象は、誰にでも起こりうるものであり、第三者の関わりなくして回復は困難な問題なのです。



なぜ支援が必要なのでしょう?

能力を十分に発揮できないご自身の不本意な思いが続くだけでなく、動き盛りの元気な労働力を失うことは、地域としても大きな損失です。そのまま、ひきこもり状態にある青年を放置すれば、本人や家族が苦しむだけでなく、将来的には生活保護などの公的扶助が増大する恐れもあります。ひきこもりは決して家族や本人だけの問題ではありません。社会問題としてとらえ、できるだけ早期に支援につなげる必要があるのです。



春風通信 はるかぜつうしん VOL.12

発行者: 高松市議会議員 春田敬司
 発行日: 2017年10月
 連絡先: 〒761-8013 高松市香西東町14番地8
 電話: 087-842-5730

春風対談

家族だけの問題ではない! ひきこもりの今

hito.toco代表
宮武将大
みやたけ しょうた



高松市議会議員
春田 敬司
はるたけいし



8年のひきこもりを経験! 宮武将大さんはこんな人

1985年生まれ 香川県生まれ香川県育ち 小学6年生(12歳)の時に不登校になり、そのまま20歳までひきこもり生活を送る。28歳で就職し、働く傍らひきこもりの当事者や経験者と自助グループ等を立ち上げる。2016年に法人化し、一般社団法人hito.toco(ヒトコ)を設立した。



若者の「生きづらさ」と向き合う

春田 そもそも宮武さんは、なぜ団体を立ち上げてまで、ひきこもりを支援しようと思ったの?

宮武 ひきこもりの支援に携わるようになったのは、就職活動中のインターンシップ(就業体験)で福祉事業に取り組む大阪市のNPO法人で働いた時、昔の自分と同じように「学校のことを考えると、おなかが痛くなる」と話す不登校の小学生と出会ったことがきっかけです。最初はひきこもりの



経験者を「ひきこもりピアサポーター」として養成する香川県の研修に参加しました。その後、支援団体「KHJ香川県オリーブの会」に所属し、月に数回、ひきこもり人を訪ね、相談に乗り始めました。ただ「これまで支援の網から漏れてきた人もいます。インターネットを通じて相談を受け付け、支援団体につなぐ役も必要ははず」と思うようになり、団体を立ち上げて独自の活動を始めました。

春田 これまで、ひきこもりやニートなどの支援の必要な若者への支援は、公明党の実績により大きく広がってきました。「子ども・若者育成支援法」を創り、若者サポートステーションや、ひきこもり地域支援センターを設置するなど、支援の網目(セーフティネット)が大分細やかになってきました。私も、当事者や家族会の皆さんの声を香川県や高松市に届けて参りましたが、まだまだ不十分な点があると思っています。そんな中で、団体を立ち上げた宮武さんが今後担っていきたいと考えているところは?



宮武 私たちの所で全てのひきこもり支援が担えるわけではありません。でも経験者ならではの目線で生きづらさを感じている人と向き合い、「待つ」ことはできと思っています。ひきこもりを2年も続ければ、だんだんとひきこもりに飽きてきます。ゲームばかりも続けてられません。「このままではいけない」と感じ始めたときに、社会復帰に向けて「やりたいこと」を一緒に考えるなどの支援はできるはずだと思っています。そんな時にスピード感を持って手を差し伸べられる団体でありたいですし、その人それぞれに合わせて家族・企業・行政などへと「つなぐ」役割を担っていきたいと思っています。

これから必要な支援

春田 今、高齢の両親と未婚の子供が同居している場合、子供は働いていなくても親の年金などでなんとか暮らせます。しかし親が80代、子が50代になり、親の介護がのしかかれば、双方の生活が破綻



高松市弦打コミュニティセンターにて

しかねません。この「80・50問題」が、ひきこもりの長期化と高齢化により、深刻な問題として浮き彫りになってきました。また、ひきこもりの原因のうち「不登校からひきこもり」の割合も高く、教育と福祉の連携や、障がい福祉との連携など「生きづらさ」を感じている子供や若者に対して、地域が一丸となって取り組まなければなりません。私も「若者支援の総合窓口」や「地域丸ごとの福祉」が必要だと考え、議会の中でもその必要性を訴え続けています。

宮武 ひきこもり支援の人たちだけが集まってもいけません。私もひきこもり支援の他に不登校の生徒の学習支援も行っています。また、普段は介護の仕事をしているが、介護の現場も人手不足などで地域や企業と繋がっていかないと解決しないことが沢山あります。そこで築かれた人材のネットワークがひきこもりも含め、地域を良くすることに繋がると考えています。



hito.tocoの活動内容

香川県を拠点としてアウトリーチ(訪問型)によるひきこもり等相談支援や研修会の開催、講師活動等を行っています。その人自身を持っている本来の力を信じ、不登校・ひきこもり経験を活かした説得力のある言葉で、社会とのつながりを促しています。親と子ども、子どもと先生など「価値観」のせめぎ合いの中で日々支援活動に奔走する毎日です。現在、その活動範囲はひきこもり支援にとどまらず、学習塾と提携しての不登校を中心とした学習支援、四国4県の多種多様な若者を対象としたコミュニティづくりなど、どんどん裾野を拡大しています。

春田 私と宮武さんは、今から6~7年前、宮武さんが大学生のころに、NPO法人ソーシャルベンチャーズ四国の活動を通じて出会いました。その後、ある講演会でひきこもり当事者としてパネラーとして体験談を語っていた時に再会したのですが、見違えるように自信に溢れ、随分としっかりとしたなあと思ったものです。その後もどんどん活躍の舞台が広がっていて本当に頼もしく感じています。まさかこんな風に「ひきこもり支援」で連携できるとは思いもよらなかったですね。



宮武 今は「不登校やひきこもりの経験者」として、人前でお話をする機会を得ていますが、いつまでも「ひきこもり」の肩書・枠のまま活躍していきたくないと考えています。自分たちの居る地域を良くするために、未来を担う若い人材のネットワークを築いたり、福祉と企業とをつなげる活動など、やらなければならないことは沢山あります。これからもしっかり見届けてください!

ひきこもりの相談・支援情報

ひきこもりについての悩みは、まずはこちらに相談を。

香川県ひきこもり地域支援センター アンダンテ

年々増加するひきこもりに関する相談に対して、専門的な対応をするために開設されています。「アンダンテ」とは音楽の速度記号で「歩くような速さで」と訳されています。ひきこもりの当事者、ご家族、支援者が「歩くような速さで」あせらず、確かな足取りで歩みを進めていくことができるよう願いを込めてつけられています。ひきこもりについての悩みは、専門のひきこもり支援コーディネーターに個別相談できます。その相談内容に応じて、さらに適切な機関を紹介しています。

活動内容

- 相談(来所相談・電話相談・メール相談)
- グループワーク(親の会)(月1回)
- 当事者の集い「poco a poco」(月2回)
- 研修会(支援者・一般県民の方)

相談のメール等ははこちらから ▶ ひきこもりアンダンテ

所在地:高松市松島町一丁目17-28
香川県高松合同庁舎4階 香川県精神保健福祉センター内

連絡先 | 087-804-5115

高松市のひきこもり相談窓口

開設日時 ● 毎月第1~4土曜日の午前9時~午後4時
開設場所 ● 特定非営利活動法人 KHJ香川県オリーブの会
高松市今新町4番地20 電話:087-802-2567

※登録された「ひきこもりサポーター」をご自宅等で派遣することもできます。

高松市保健センター こころの健康相談

対象者 ● こころの健康問題を抱えている人やその家族など
申し込み ● 高松市保健センター 精神保健係 電話:087-839-3801



春田が関わった ひきこもり支援の 取り組みと動き

●平成24年12月 定例会(12月11日)会派代表質問
若者支援室の設置や総合相談窓口の設置とひきこもり実態調査を行うなど、総合的な今後のひきこもり対策への取り組みを強く要望する。

●平成26年9月 定例会(9月17日)一般質問
家庭教育支援の窓口の一元化と不登校への対応・スクールソーシャルワーカーの増員を強く要望する。

●平成26年11月21日
NPO法人KHJ香川県オリーブの会の皆さんと浜田香川県知事に「ひきこもり支援の充実」を要望。



●平成26年12月 定例会(12月12日)会派代表質問
子ども・若者支援地域協議会の設置や総合相談窓口の設置を行うなど、若者支援体制の充実を強く要望する。

●平成26年12月25日
NPO法人KHJ香川県オリーブの会の皆さんと大西高松市長に「ひきこもりサポーター派遣事業」の早期実現や「居場所」の設置を要望。



●平成27年7月
高松市が四国初の「ひきこもりサポーター派遣事業」を開始。

●平成27年10月 第10回KHJ全国大会 in香川
全国ひきこもり家族会連合会・支援者交流会に参加。(開催地:高松市)

●平成27年12月 定例会(12月11日)会派代表質問
相談窓口の設置と生活困窮者自立支援法に基づいた、ひきこもり支援への対応を強く要望する。

●平成28年12月 定例会(12月12日)一般質問
相談窓口の年齢引き上げと傾聴サロンの開設を強く要望する。